

- 4) United Nations, Activities of Intergovernmental and Non-Governmental Organizations in the Area of International Migration, E/CN. 9/1997/5 (New York, 1997).
- 5) United Nations, Flows of Financial Resources in International Assistance for Population, E/CN. 9/1997/6 (New York, 1997).

(阿藤 誠記)

CICRED による『女性と家族 (Femmes et Familles)』に関するセミナー

1997年2月24日～26日、フランスのUNESCO本部において、人口研究機関国際協力委員会(CICRED: Comite International de Cooperation dans les Recherches Nationales en Demographie)主催の『女性と家族』に関するセミナーが開催された。このセミナーは以下の5つのセッションから構成され、それらは、「家族生活と女性の地位」、「女性の役割と家族変化」、「女性の地位と家族構造」、「経済的役割と家族変化」、「女性の地位、家族生活と性別役割」である。

このセミナーには、あらかじめテーマに関する論文を提出した世界25ヶ国の研究者が参加し、家族変動の要因、あるいは帰結としての女性の地位の変化に関して、各国の状況踏まえて活発な議論が繰り広げられた。なお、本研究所からは、西岡が参加した「Evolution of Women's Status in Japan」と題する論文を提出した。

(西岡八郎記)

1997年アメリカ人口学会年次大会

アメリカ人口学会(Population Association of America)の1997年度大会は、3月27日から29日にかけて、ワシントンDCのグランドハイアット・ホテルで開催された。今年も参加者1600人以上、正規分科会が140という相変わらずの盛況ぶりだった。本研究所からは、山本千鶴子・鈴木透・清水昌人の各技官が参加した。

分科会での報告では確率的人口推計の流行が目立ち、人口推計以外でもたとえば離婚などの分科会でこの手法を用いた報告がなされた。2日目午後には会長講演が行われ、Karen O. Mason会長が“Explaining Fertility: A New Consensus”と題して出生力研究の統合的枠組みを提示した。またこれに先立って学会賞の発表があり、John Bongaarts(ポピュレーション・カウンシル)、Gary Becker(シカゴ大学)、および大学院生のJohn Ireland(ミシガン大学)とHeather Cobal(ブラウン大学)が表彰を受けた。

(鈴木 透記)